

「障子を開けてみよ、外は広いぞ！」



豊田佐吉（1867～1930）

皆さんはこの言葉を知っていますか。この言葉は、発明王と言われている豊田佐吉さん（1867～1930）の言葉です。佐吉さんは、自動織機（しょっき）を発明し、豊田紡織廠（とよだぼうしよくしよ）という会社を上海に設立しました。紡織とは、糸を紡（つむ）ぎ、機（はた）で布を織ることです。その機（はた）を織機といいます。昔は、むかし話（鶴の恩返しなど）に出てくるように、はた織り機は人力（手と足）で動かしていました。これを佐吉さんが動力で織る自動織機を苦勞しながらもついに開発し、織機や織機でつくった布を売ったのです。当時、布などの繊維素材は日本の重要な輸出産業でした。日本で大成功をおさめた佐吉さんは、初の海外進出として上海に会社をつくらうとします。しかし、周囲の大反対にあいます。その時、佐吉さんは「障子を開けてみよ、外は広いぞ」と周囲を説得します。世界に目を向けることの大切さを教えてくれる有名な言葉です。結果的に佐吉さんは上海で豊田紡織廠を設立し大成功を収め、日本の産業の著しい発展の礎を築きました。



佐吉さんが発明したG型自動織機



私（左）と野田博文館長（右）

ちなみに佐吉さんの長男の豊田喜一郎さんはトヨタ自動車の設立者です。上海豊田紡織廠は、トヨタグループ初の海外進出会社として1921年（大正10年）に設立され、同社の発展は、のちのトヨタ自動車設立の大きな原動力になりました。佐吉さんは1927年に西川秋次さんに後事（こうじ）を託し、帰国します。上海豊田紡織廠は、終戦の1945年まで稼働しました。まさに世界のトヨタのルーツと言える場所です。現在は、記念館になっており、発明王であった佐吉さんの「豊田式木製人力織機」「G型自動織機」の展示もあります。記念館の館長の野田博文さんとは、日本人学校で講演をいただくなど、公私ともに仲良くさせていただいています。

私が佐吉さんに感銘を受けたのは、「障子を開けてみよ、外は広いぞ！」の言葉だけではありません。「まず、官僚外交の前に、国民外交がなければならぬ」や「全人類に対して、一大奉仕をなす覚悟をもって進まねばならぬ。ここまで進めば、日中親善は自然に実現する。」など、当時から国際理解の大切な心構えを見抜いて実践したことです。当時、上海へ進出していた多くの日本の企業は労働者として中国人を雇っていましたが、決してよくはない労働環境での作業を強いていました。しかし、佐吉さんは当時から、仕事や経営を支えているのは人である。お互いの信頼を会社運営の基本とし、中国人のことをよく知り、心を通わせた交流を心掛けていたそうです。

まずは自分から相手に飛び込んでいくこと。そして、相手と直接コミュニケーションをとることで、相手を理解でき、そこから、お互いに幸せな関係が築けると思います。私は上海へ来て2年半が過ぎました。上海に来たことで少しは障子を開けることができたと思います。そして、さらに障子を開けて中国をさらに理解して、私なりの日中友好のかけ橋をつくりたいと思います。